

〔大城勇太議員 登壇〕

○6番 大城勇太君 皆さん、おはようございます。ことし初めての質問になります。ことしの干支はイノシシでありますけれども、新年の挨拶で猪突猛進などといういろいろな使わせていただきました。実は、干支がイノシシなのは日本だけで、香港、中国、台湾、韓国、全て豚年でございます。なぜ日本がイノシシ年かと言いますと、実はある文献によりますと、豚はイノシシを家畜したもので、もともと森林の多かった日本は、イノシシがふんだんにとれたために、豚が普及しなかった。そのために、そこから干支が伝わり、豚ではなくイノシシになったとされています。6番、大城勇太、今年度最後の質問をさせていただきますので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。全質問、一問一答式でお願いします。

1. 庁内認可保育園の待機児童対策について問う。(1)現在の待機児童の現状と今後の推移を問う。(2)今年度の増園で待機児童はどうなったか。よろしくお願いいたします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 それでは質問事項1点目の(1)についてお答えします。平成31年度入所に関しましては、待機児童は261名となっております、対前年度67名の増となっております。(2)についてお答えします。平成30年度は60名定員のやまびこ保育園の新設や、よなほ保育園とやまがわ保育園の定員変更、開邦幼稚園の認定こども園移行などを行い、144人の定員増を図りましたが、待機児童はまだ解消できておりません。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 新年度から、無事に1歳児三男の認可保育園の入園も決まり、ますます議員として頑張っていきたいところではありますけれども、やはり4人の子供を持つ世代として、同じ子育て世代の方々からさまざまな相談を受けますけれども、やはり一番多いのが待機児童の相談です。認可に入りたいけれども、なかなか入れなかったり、希望した保育園に入れなかったりというお話しをよくお聞きします。今回も、やはり待機児童261名とありますけれども、年齢別の詳細などがわかれば教えていただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 4月入所予定での待機児童です。まずゼロ歳児が10名、1歳児が134名、2歳児が77名、3歳児が38名、4歳児、5歳児がそれぞれ1人ずつとなっております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。2番の質問とも関連しますけれども、新聞等でもあったように、年末、琉球新報で、12月27日に県内待機児童がありましたけれども、県内で3,275人。実際に、この3年間で保育士も3,000人ふやしているそうですけれども、まだまだ現状としては減らない状況、南風原町においても県内では5番目に多いとなっておりますけれども、増園にもかかわらず、待機児童がふえている要因がわかるのであれば、この見解をよろしくお願いいたします。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 まず、本町の特徴としましては、やはり若いまちでありまして、子育て世代の方々が多いと。転入も含め、そして出生数も多いと。未就学児童の児童数が毎年ふえていく状況がありまして、これがまず一つの要因と。我々、平成27年から平成31年までに547名の定員増をしておりますが、それでも追いつかない状況ということで、やはりこの部分ではそういう子供の数がふえているというのが、まず一番に挙げられます。加えて、これは他市町村も同じ条件ですが、保育士の確保が、各園なかなかうまくいかないという部分で、保育士が確保できれば、まだまだ預かれる園児の数もふえますが、今そこも苦慮しているところということが挙げられます。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 やはり保育士の確保が最重要課題になってくると思いますがけれども、近隣の市町村に比べ、本町の保育士の給与、差額などがわかれば、あと保育士の数、現時点でどれぐらい足りないのかがわかれば、その内訳をよろしくお願いいたします。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 今、各園、それぞれがどれだけ保育士が足りないという資料は手持ちでございませんが、それぞれが足りなくて、一時保育もできないとか、そういう状況が出てきておりますので、そこはそれぞれ確保策に向けて、各園といろいろ対応策等を検討していきたいと考えておりますので、処遇に関しましては、それぞれ社会福祉法人でするので、それぞれの運営がありますので、そこで処遇は、それぞれの園の規定であります

ので、その比較はございません。ただ、我々の公立の保育園においては、この4月1日から臨時の場合は時給を改定しまして、時給アップを図り、那覇市とかそのあたりよりも若干上回っている、あるいは那覇市と同じとか、とにかく上のほうに持って行っておりますので、4月からの公立での臨時の保育士の確保はめどがついてきた状態であります。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 連合審査会でもあったように、まだまだ保育が足りないという状況だとお聞きしました。待機児童解消はもちろん、これからの施設整備はもちろん、保育士の確保も重要な課題になってくるかと思っております。今年度から、また新しく増園の2園、新設なども含めて、平成32年4月から、また新しく開園できるようにと予算案も出されました。やはり現在では足りない保育士を、今回の増園によって、必要な保育士は今後確保できるのかどうかを、確保に向けての具体的な対策があればお聞きしたいと思います。お願いします。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 潜在的保育士、資格は持っているけど保育の職についていない方々が、是非保育の現場に戻ってきていただきたいというのは、これは、沖縄県を挙げて、全国的にもその課題がありますので、国を挙げてといいますか、そういう方々の保育士職への復帰を心待ちにしているところでございます。その対策としましては、国もいろいろな支援策を整えまして、例えば保育補助者の雇い上げに関して補助金を出すとか、保育現場での事務の効率化とかでICT化を図る部分に関しての補助とか、そういった幾つかの補助メニューがございまして、我々も、これはこういったものがあります、活用しますかということ、保育園に投げかけて、そして各園から、各園それぞれの事情でいろいろ取り組んでもらっているところです。今後もこのあたりをしっかりと、保育園とこういうことで改善できますとか、そういう情報を流して、保育士の確保、一緒になって取り組んでいきたいと思っております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ここ数年、南風原町は特に賃金も含めて、土地も大分値上がりしている中で、お隣の南城市が保育士確保のために、約18万5,000円という保育士の値段を出してきたので、それに伴うもの以上に南風原町もやっていかなければ、今後はまた保育士の確保に十分な確保ができないと思っておりますので、平成31年度、32年度、やはりまだまだ南風原町は人口がふえますので、是非、待機児童ゼロに向けたものを、しっかりと打ち出して解決するようと思っております。また、毎回、待機児童はどのくらいかと言われておりますので、これを定例会ごとにしっかりと町民に示していきたいと思っております。続いたの質問をさせていただきます。

2. 町内小中学校の整備・安全・救命対策について問う。(1) 電子黒板の普及率はどのくらいか。(2) 津嘉山小学校の入り口の看板、128号線です。信号のところになりますけれども、そこに看板設置は可能か。(3) BLS(心肺蘇生)・エピペン講習(アナフィラキシー・ショック対応)の実施状況を問う。(4) AED(自動体外式除細動器)は町内小中学校全てに設置しているか。よろしくをお願いします。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 お答えいたします。まず(1)でございます。現在、普通教室138教室中、138台設置で100%の設置率、理科室及び英語教室、15教室でも同じく15台設置で100%となっております。(2)の看板のことでございますが、去年の9月の台風で設置されていた看板が破損しまして、現在、場所とか表示方法について、再設置に向けて検討しております。(3)でございます。心肺蘇生、それからアナフィラキシー・ショック等のエピペンの講習会でございます。これは、今年度は心肺蘇生、それからエピペンの講習会を小中5学校で実施を行っております。(4)でございます。町内の幼稚園、小中学校全てにAEDを設置しております。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 再質問させていただきます。電子黒板100%普及ということですが、現在も、長いので約8年たっているということで、小学校から私にご相談があったのですが、現在もプロジェクターが約3,000時間の消耗時間になると思えますけれども、実際、天気がいい日は、遠い子供、電子黒板から一番後ろにいる子供は暗くて見えづらいという声がありました。ランプ交換など、1台当たり3万円ぐらいするとお聞きしましたけれども、また、タッチペン、実際にこれを使って黒板で、タッチペン自体も不具合で使えない状況になっているそうですけれども、現在設置されている電子黒板、メンテナンス等も含めてどのような対策ができるのか。またこれはランプ等も交換できるのかどう

か、可能か見解を伺います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 ご質問が幾つかあるのですが、照度が足りない電子黒板等については、電球等を変えらるということに対応しています。照度以外に、投影機自身が故障になっていると。電子黒板自体の機器自体が上にぶら下がる形になっていて、振動等で非常に壊れやすいことがございますので、その修理等をこちらでやっているのですが、修理がきかない部分、その辺については、設置型のものを代替えとして使えるような形を用いたり、また、形として別の、何と申しますか、電子黒板以外のものでも設置するための投影機等もございましたので、それを使って電子黒板のかわりになるようにということでも措置してございます。当然、壊れている部分については修繕費を計上して修理をする。それから新しく機械を取りかえるということで、備品費等にも計上しております。それからタッチペン等についても、こちらでわかり次第、修繕に回すという形で対応しております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。やはり子供たちも、せつかく100%普及しているわけですから、しっかり使える形で、また今後、新しいテレビみたいな形の電子黒板もあるようですので、それも検討しながら、今後は対応のほうをよろしくお願ひします。続いて、小学校入り口の看板設置は可能かというものに対してですけれども、去年8月に、大型台風が来るということで、たまたま地域住民の方から看板が腐食しているということで、確認したところ、根元も大分腐れて、約30年だとお聞きしましたけれども、鉄製の看板も今にも落ちそうでしたので、小学校の校長先生、教頭先生を呼んで、これは早急に対応できないかということで、役場に連絡して、その日で撤去してもらいました。やはりその後、小学校で行われる各大会等、サッカーチーム、野球チーム、離島も含めて、小学校の入り口がなかなかわかりにくいと。そういった部分で何度も連絡があったそうなので、信号機があるのでそこを曲がればと言えればかと思ひますけれども、きちんと示せるような形で、今後は対応していただきたいのですが、この質問に対して、どのようなものをお考えですかと質問がありましたので、電光掲示板と答えてもよいのかどうかを、再度お伺ひします。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 ありがとうございます。こちらで考えていますは、非常に見通しが悪いといひますか、いろいろなものが建っていたり、それから建物が道いっぱい建っていたり、それから歩道が狭かったりということで、我々のほうでも四方、いろいろ確認して、いずれの場所からも見える場所はないのかも含めて検討させていただきました。なかなか、建物、それから信号機、いろいろなものが周りにごちゃっとしているものから、非常に設置しづらい場所になっています。今、我々で検討しているのは、基本的に、一番、前回ついていた形のものが見通しもいいのかなということはあるのですが、もともとついていた場所が個人の所有物の上に建っていたものから、その辺の了解等をとったり、もし道路に出すようであれば、道路の管理者の許可を得る等の部分があったものから、少し設置におくれが出ていますけれども、再度、一番効率がよくて見通しのいい看板をつけていきたいと。電子掲示板等については、維持管理も含めて非常に大変なことになるものですが、台風等でいろいろな影響の出る沖縄ですので、従来のものが一番いいかと考えております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 電光掲示板は、財政を考えると贅沢は言えませんが、是非早急な対応をよろしくお願ひします。次の質問ですけれども、教員におけるBLS・エピペン講習ですけれども、ここ数年で心肺停止など、アナフィラキシー・ショック、そういったものがあつたのかどうかを、把握しているのであればお聞きします。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 学校でそういった心肺停止などがあつたということは、確認できておりません。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前11時31分）

再開（午前11時32分）

○議長 知念富信君 再開します。学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 済みません、失礼しました。今年度、南星中学校で1件、心肺停止で救急搬送されたケースがございました。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 実際に、心肺停止等を含めて、心肺蘇生、アナフィラキシー・ショック症状ですけれども、そういった緊急事態で、実際に養護教員、もしくは保健体育教員以外にも、諸先生方等、そういった対応ができるかどうかをお聞きします。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 小中学校で少し形は違うかと思えます。基本的に、教頭先生であるとか、体育の先生であるとか、それから養護教諭であるとかという部分については、その辺は行えることになっていることと、先ほど答弁しました、こちらで講習会等も行っていきますので、基本的には、学校にはいずれか誰かができる形でいるということでございます。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 なぜ今回この質問をしたかと言いますと、実際に病院で、アナフィラキシー・ショックで倒れている患者を見ました。やはり病院でしたので、看護師が早急に対応し、意識レベルなどを見て、何が原因なのかを判断して、その場にたまたまかばんがあったから、かばんの中にエピペンがあったと。そこで、かばんから取り出して、それで対応したというのも見ました。やはりこういった緊急事態のときに、実際に教諭が対応できるのか、実際に全先生ができる状況でなければ、なかなかそういったものも改善できないと思っております。やはり学校では、第一発見者が児童生徒である可能性が70%だと見ましたけれども、小学校段階から、中学校ではある程度のことは把握できると思えますけれども、小学校段階からBLS教育やエピペン等の教育もしていったら、ある程度、子供たちでも即座に対応できる形でやっていると助かると思えます。日本におけるアナフィラキシー・ショックで死亡する小学生、中学生は年間70人いるそうで、全体の1%、100人に1人がアレルギーで発症するとありました。決して少ない数字ではないと思っておりますので、これからは全教諭、全生徒に対して、アナフィラキシー、アレルギーショック症状なのかを見抜けるような対応をして、講習等も小学生から見せられる状況にしていきたいと思っております。小中学校生徒だけではなくて、やはり保育園、預かり保育、そして学童などでも実施していければと思っております。続いて、AEDは町内全てに設置しているかですけれども、実際、全学校に設置しているとありましたけれども、実際どこに設置されているかというのがわかれば、お聞きしたいと思っております。お願いします。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 設置場所については、主に玄関付近、それから職員室付近に設置がされております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 全国、小中学校のAED設置場所を確認したところ、平成31年1月8日現在、ほとんどのAEDが体育館付近に置かれていると。それはなぜかといいますと、やはり66%が運動中に起きるものですので、激しい運動をしている場合、体育館や運動場にいることが多いと。今現在、ほとんどが職員室の前とか、そういった教室に置かれているのも、私も確認しましたけれども、適正な場所への設置も、移設も可能なのかどうかお聞きします。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 適切な場所という部分については、議員の思いの部分も乗せての発言かと思われるのですが、今現在も、一番適切な場所が職員室ではないかという判断で置かせていただいています。運動する場というものは、教室の中もそうですけれども、体育館、運動場、それから園庭等、いろいろなところがございまして。どの方でもAEDがあるであろうと想定しやすい場所を現在選んでいるということでございますので、またその状況等も踏まえて、検討すべきであれば、校長先生等ともご相談してお話しはしていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 実際、職員室前が適正と判断しているということですが、AEDが職員室にあった場合、土日、そして祝祭日は使用可能ですか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 基本、我々は警備員等も置いていますので、基本的には使えると。今、使えない場合があるかということで、担当に聞いたのですが、基本的にはいつでも開けられる状態になっているということでございます。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 AED設置自体は、1台あればよいのではないと思っておりますけれども、全国では、児童生徒の人数に合わせ、追加で職員室や多目的ホール、体育館など

に置かれているそうです。現在、効果的なAEDの配置が、今後は重要になってくると思いますけれども、平成29年度には、伊丹市の23の小学校全て、平成30年度には、三重県の313の小中学校全てが、またその他さまざまな自治体が、体育館、運動場近くの野外に移設しました。これは、学校施設時でも使えるように、地域のイベント、スポーツクラブ等でも、誰でも緊急時に24時間体制で利用できるようにするとありました。いざというとき、地域住民がいつでも利用可能なAED設置を、設置場所の周知に本町も取り組むべきだと思いますが、見解を伺います。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 今、学校というくくりでお話しをすれば、我々当然、学校教育というのを最優先するところではございますが、実際に、地域のイベントとか体協等もありますので、それは総合的に判断したいと。仮に屋外に置くと、正直なところ、現実問題として管理の部分の課題もあると思いますので、そういったことも含めて、いつでも使えるけど管理が可能と、両面性があると思いますので、すぐに使える場所というのは、その辺も含めてトータルで判断していきたいと思います。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。やはり土日でもスポーツクラブ等もありますので、やはり一番近いものが何よりもいいかと思いますので、今後をご検討のほどよろしく申し上げます。

続いての質問ですけれども、3. 本町の高齢者ワクチン助成について問う。(1) 高齢者へのワクチン接種の助成は何歳からどのようなものがあるか。(2) 助成接種期間はいつか。お願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目、(1)についてお答えします。インフルエンザワクチン接種が65歳以上の方へ、肺炎球菌ワクチン接種は65歳以上、5歳刻みで100歳までの方に助成しております。(2)についてお答えします。インフルエンザの接種期間は、10月1日から2月28日まで5カ月間で、肺炎球菌は4月1日から翌年3月31日までの1年間です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。再質問させていただきますけれども、やはり肺炎は、日本人の死因の第3位になっているわけですけれども、肺炎で亡くなる方の95%は65歳以上、高齢になると、やはり体調の変化など、ちょっとしたことがきっかけで肺炎を起こし、急激に症状が進むこともあります。来年度、平成31年度から肺炎球菌ワクチンの助成がなくなるとのことですが、その要因を伺います。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。助成がなくなるのではなくて、これまでは全額助成していたものを約半額、4,000円を負担していただくということでございます。当初予算の計上では、これまで65歳から5歳刻みで助成をしておりましたが、新年度からは新たに65歳になる方のみということで予算も計上しております。ただこの後、つい最近、国から通知が来まして、国としては平成30年度までで、65歳から5歳刻みで順次やっていくようにということでしたが、この3月中旬から末にかけて、予防接種法施行令の一部を改正する政令が公布される予定になっておまして、この期間を、また平成31年度から35年度まで延ばすという方針が出されました。したがって、この政令が公布されたら、また同じような形で65歳から5歳刻みの方法でやることとなります。ただし、全額助成ではなく、やはり4,000円は自己負担していただくということになります。以上でございます。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 肺炎球菌ワクチンは、65歳から5年ごとに接種ということですがけれども、65歳、70歳、75歳と接種するわけですがけれども、定期的に用いられるのはニューモバックスワクチンです。それは5年に一度打たないといけないわけですがけれども、今はもうプレベナーというワクチンも、1回接種すれば今後打たなくていい、そういったものもありますので、そういった検討もされたのかどうか、見解をお聞きしたいと思います。

○議長 知念富信君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん これは、どの薬品をワクチンとして接種するかについては、国から通知がございまして、それを医療機関で判断していくことになっております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 1回接種するプレベナーワクチンは、7,000円と1.7倍ぐらいするものですが、1回という、65歳以上は1回打てば、今後は打たなくていいというものもありますので、そういったものも今後は検討して行って、負担軽減になればと思っておりますので、よろしくお願ひします。また、インフルエンザワクチンについてですが、本町は、65歳以上は無料、期間としては2月28日までとありますけれども、10月1日から2月28日までという接種期間になっている理由があれば教えていただければ。

○議長 知念富信君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん インフルエンザは、例年12月から4月まで流行します。そのために、12月前に接種して、4月の1カ月前までには接種をしてほしいということで、10月から2月末までという接種期間を設けております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 近隣の豊見城市、南城市も1,000円負担、2月28日まで、八重瀬町は1,500円負担で2月28日まで、那覇市は1,000円負担で1月31日まで。なぜかと那覇市に問い合わせてみたら、やはり例年11月から12月にはやるから、それまでには打って、1月、2月にはピークを迎えるからそれぐらいでと、那覇市にはお聞きしました。やはりインフルエンザワクチンというのは、接種してから2週間で効果が出て、5カ月間ぐらいもつのがインフルエンザワクチンですが、2月28日に摂取した場合、はっきり言って余り意味もないような、はやらない時期に打つようなことになると思います。実際、今回、私もインフルエンザワクチンの接種をしたのですが、おじいちゃん、おばあちゃんも今回猛威的なインフルエンザがはやったということで、ワクチンを接種しに来ていました。また、小中学生も、高校生もあしたセンター試験があるから接種したいと。はっきり言って、きょう打つてもあしたきくわけでもないのだから、それをしっかり町民に示して、2月28日に打つても、はやらない時期に打つてもどうしようもないのだと。医療機関の中では、12月までには接種期間が終わるところもあるので、そういった意味では、2月28日までやる意味があるのかということも疑問に思ったので、今回質問をさせていただきました。今後も、やはり高齢者のみならず、やはりはやらせないためにも、役場職員も含め、医療関係、そして学校職員もインフルエンザワクチンの接種の徹底を義務づける必要があるかと思っておりますので、今後のご検討をよろしくお願ひします。

最後の質問になりますけれども、4.長寿の町づくりについて問う。(1)本町は長寿の町づくりについてどのような取り組みを行っているか。お願ひします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項4点目についてお答えします。健康長寿の延伸と早世、これは65歳未満の死亡ですが、の減少に向けて「健康はえばる21」「データヘルス計画」「高齢者保健福祉計画」に基づき、生活習慣病等の発症並びに重症化予防の推進と、介護予防・日常生活支援総合事業の推進に取り組んでおります。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 町長、前町長からも思いでもあります、子供たちには愛を、そして若者には夢を、そしてお年寄りには安らぎをとありますけれども、町長が描く長寿の町づくりについてのご答弁を是非よろしくお願ひします。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 お答えいたします。まさに大城勇太議員がおっしゃるとおり、若者には愛と夢を、お年寄りには安らぎを、そういったものが一番大事でございまして、それはやはり私も引き継いでいきたいと考えております。町民の皆さんの健康づくりということにつきましては、まとめて申し上げますと先ほど答弁したとおりでございまして、私も一番思いますには、やはりしっかりと、幾つになっても自分の足でゆっくり歩いて、やはり自然を満喫できると。いつまでも、はっきり申し上げまして、寝たきりにならないで人生を謳歌していただきたい。そういったものが、まとめて申し上げますと健康づくりではないかと思っております。毎日を明るく楽しく過ごしていただきたいということでございます。多分に、働き世代のお父さん、お母さん方にとりましては、子育て最中のときは、なかなかご自分の健康管理もままならないかと思っておりますけれども、少なくとも60代、70代になりますと、先ほど申し上げましたように、毎日を楽しく元気に過ごしていただくというのが大事かと思っております。よく、うちな一ぐちにありますように「ムスルトゥティーチーならんように」と、そのためにはどうすればいいかということ、それぞれの町民の皆さんが、それぞれご自分の健康に、体調に合うような形で、健康づくりに励んでいただきたい。また、町といたしましては、いろいろなお手伝いをしてまいりたいと考えております。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 町長、ありがとうございます。やはり今年度の赤字、来年度の赤字を、9億円近い国保の累積赤字を見ていると、やはり天然温泉はまだ早かったかと思っておりますけれども、資料をお配りしたように、町内でも生活習慣病の見直しをするだけでも、国保赤字の改善になればと、これは減塩サミットをやっているわけですが、南風原町でもこの減塩サミットを提案したいと思っております。日本は、世界の中でも2番目に多い食塩過剰摂取国だそうです。やはり減塩の効果は大きいと思っておりますけれども、やはり食塩を減らすと、医療費も大分軽減されるそうで、ヨーロッパあたりでは、食塩軽減だけで2,200億円、医療費削減につながっているとありました。やはり日本でも、2012年から広島市、呉市から始まった減塩活動、減塩サミット、広島の呉市というところですが、余談ですが、KURE556は呉市の556番地で製造しているそうです。全然関係ない話ですが、2025年までに、減塩、そして野菜を食べる、孤食を減らすという3本目標に、呉の役場を挙げて減塩サミットが行われており、今では兵庫県、大阪でも減塩サミットをやっているそうです。やはり本町も、生活習慣から見直して、おいしいものを食べて助成を受ける、夜はマーサムンカ、カマナカイ、朝から病院イチムルヤス、そういうことがないように、医療費負担は減るところかふえる一方だと思っております。以前の一般質問でも善之議員からあったように、特定健診もしっかり受けてもらう、そして減塩の尿検査をして、保健指導をしっかりと確立する。やはり本町を挙げてしっかりと減塩をアピールすることが、今後の医療費負担の軽減にもなるかと思っております。そして食育を通して、子供から大人まで幅広い軽減啓発をし、高校生などの若い世代でも、減塩に関する事業をしっかりと行って、減塩の大切さを知ってもらう。そして幼稚園、保育園、連携しながら、小中学校でも栄養士協力のもと、塩分を控えた学校給食の提供を行うことで、子供のころから薄味になれた食育の推進をすることで、生活習慣病は負担軽減、そして医療費の負担軽減につながると思っております。国の厚生労働省が推進する一日の摂取量が8グラムですので、それに対して高血圧の方は1日6グラムとされていますので、本町も6グラムを目指していけば、医療費は大分負担軽減になるかと思っております。自分のこの提案、減塩サミットを踏まえて、大城美恵子保健課長、見解をお伺いします。

○議長 知念富信君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん 確かに、日本全国から見ますと、勇太議員がおっしゃったみたいに、日本人は塩分のとりすぎということで、減塩の指導をするようにというところで、厚生労働省もそういうことはやっております。ただ、沖縄に関してどうかと申しますと、日本全国で沖縄がどれぐらいの塩分をとり過ぎているかと言ったら、日本全国の中で比較すると、沖縄は47都道府県の下から2番目ぐらい、国民栄養調査では低い塩分摂取量になっています。そして、また、ほかに沖縄の健康課題、健康診断とか、いろいろ医療費の実態を踏まえて分析したところ、沖縄の健康課題は、やはり肥満、メタボから糖尿病、虚血性心疾患、そして腎疾患とかがきいていると分析されて、沖縄県でもメタボを減らしましょうと取り組んでいるところです。南風原町でもメタボを減らして、糖尿病及び生活習慣病の発症予防、重症化予防に重点的に取り組んでいるところです。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。やはり私もやせているほうではないと思っておりますので、しっかりそういったものも含めて、町内挙げて、医療費削減のために、健康という課題もありますので、塩はどうしても、塩分をかぶるとさびるといような、体もさびていきますので、できればみんなで減塩して、またすばらしい町づくりにしていけたらと思っております。やはり今回の国保の9億円の累積赤字を見ていると、来年度から始まる空調整備、そういったものも含めて、一括交付金も3,000万円近く減っている状況でございます。やはり議員16人全員が上げてきた公約を、しっかり実現するためにも、医療費負担というのは、皆さんを挙げて、執行部、そして町長、副町長を含め、皆さんで知恵を出し合って協力すれば解決できるものだと思っております。町長、今回の給料20%カット、副町長、教育長も就任して間もないにもかかわらず、10%カットと、南風原町は日本維新の会がほころびを切る改革をしているのかと言われておりますけれども、やはりそこまでしないと、現状はしないといけない状況になっておりますので、それをしっかりと、この状況を町民にも理解していただいて、今後は町を挙げて一生懸命頑張っていきたいと思っております。最後になります。ことしは亥年です。亥年は、粘り強く、困難、苦難にも耐え、何事においても万全を期して備えるとありました。やはり南風原町、しっかりと困難に立ち向かっていけば、平成32年度にはすばらしい花が咲くと思っておりますので、それを信じて、平成最後の一般質問を終わりたいと思っております。ありがとうございました。